

# 自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第209期）

愛知県蒲郡市 企画部企画政策課 杉浦 太律

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

## 1 はじめに

愛知県蒲郡市は愛知県南東部に位置し、北は山、南は海に囲まれた自然豊かなまちで、人口約77,000人です。本市からは過去、多くの先輩方が自治大学校に入校しており、私自身もその機会をいただいた際、尊敬する先輩方と同じ経験ができることに期待を抱きました。しかし、家庭の事情や職場での重要な業務が重なり、即答はできない状況でした。悩みましたが、全国から志を同じくする職員の皆さんと学べる機会は貴重であると考え、家族の協力を得ながら業務と並行して研修に臨む決断をしました。

## 2 研修が始まるにあたって

研修開始前には業務の調整をしつつ、事前課題に取り組む必要がありました。基本法制を受講するためのeラーニング学習や、事例演習に使用するケーススタディの検討ペーパー作成など、内容は非常に充実していました。そのため業務との両立は容易ではありませんでしたが、なんとかやりきることができました。研修は9月2日から11月14日までの約2ヵ月半の期間で、入寮日である9月1日には猛暑を感じながら準備をしたのが早くも懐かしく感じられます。

## 3 研修の開始

研修は憲法、民法、行政法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度といった基本法制課目に始まり、自治大学校OBの首長や著名の方による講演などの総合教養課

目、さらに公共政策、行政経営、最新の政策課題をテーマとした課目などが実施されました。また、政策立案演習、事例演習、講師養成課目など、より多くの時間を費やす演習課目が研修全体を通じて大きな役割を占めていました。

### （1）基本法制課目

研修の前半に基本法制が集中的に行われ、私達公務員が職務を遂行するために当たり前に持っていなければならない知識をより深く、学び直すことができました。各課目終了後には効果測定があり、自らの実力を試す機会となりました。

### （2）演習課目

演習課目では、最も多くの時間数を費やし、講義以外の平日の夜や休日にも、現地に赴いたり資料の作成をしたりした政策立案演習は、とても良い経験となりました。研修生自身が興味を持つ課題により班分けされたグループにおいて、テーマの決定・先進事例及び現地の調査・グループ内での意見調整・課題解決に向けた提案等について、長い時間をかけて取り組みました。

最初は同じ班となったメンバーの性格や今までのキャリアもわからない中、言葉を選びながら慎重に進めていったことを覚えています。私が所属した班は、皆さん個性的で自分の意志をしっかりと持っている方が多く、とても頼りになりました。

- ・強力なリーダーシップを発揮する方
- ・経験豊富でやる気に満ち溢れている方
- ・常に気をつかい、場を和ませてくれる方
- ・調べ物や提出物など細部に配慮ができ

る方

・司会進行が得意な方

このように性格や個性が様々なメンバーが集まった班に所属し議論できたことは、私の財産となりました。

私達の班がテーマとしたのは、「公務員の離職率の低減」という全国的にも問題となりつつあるテーマです。個人的には自分の実力を試したく、自身が業務として行っていない、より複雑なテーマで研究したかったため、人口規模が異なるメンバーの所属する様々な自治体の実情などを教えていただきながら学ぶことができ、非常に勉強となりました。

しかし、本テーマは過去に幾度と自治大学校の政策立案演習で扱われている中、「離職者の離職理由は予測できるものの明確に捉えることができない」、「捉えることができたものでも自治体の内部情報により公表できない」という最大の課題がありました。

これらを解決するために多角的な分析による、より精度の高い仮説を立て、講義で学んだことだけではなく、幹部に提言を行うという視点でわかりやすく、伝わりやすいということを心がけ、メンバーのこれまでの知識や経験を複合させた報告書を作り上げることができました。

最終日に政策立案演習の表彰式があり、最後の「最優秀賞」に呼ばれた際に、メンバーと涙ながらに握手できたことは、これからも忘れることがない瞬間です。



(政策立案表彰式：班メンバーと校長)

#### 4 ライバルの存在

参加者全員優秀な方ばかりでしたが、その中でも、私にはない圧倒的なリーダーシップと周りからの信頼感を持っているメンバーがいました。私はその方を私なりの「ライバル」として意識することで、各講義などにおいても刺激になって研修を積極的に受けることができ、自身の成長につなげることができました。研修終了後、本人に感謝を伝えた際に、お互いが同じように思っていたことがわかり、このように切磋琢磨できる関係を築けたことが研修をより充実したものにしてくれました。

#### 5 全寮制生活

全寮制生活は、最初は慣れない環境でしたが、フロアのメンバーをはじめとした研修生全員に恵まれ、充実した日々を過ごすことができました。全国各地から集まったメンバーとの交流は刺激的であり、講義後や休日には様々な場所に出かけたり、交流を図ったりすることで、講義以外でも楽しい思い出をたくさん作ることができました。単なる研修仲間以上の信頼関係を築けたことが何よりの成果でした。

#### 6 むすびに

自治大学校卒業生としての誇りを胸に、研修で培った知識や経験、ネットワークを活かし、自治体職員としての職務を遂行していきたいと思えます。最後に忙しい中でも研修参加を応援してくださった職場の皆様、研修を実施・運営してくださった自治大学校関係者の皆様や講師の方々、そして共にかげがえのない時間を過ごしてくださった研修生全員に心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。